

市議会報告いかり、康雄レポート

平成28年 3月

3大プロジェクト、着々進行中! 一方で、大きな財政負担も

川口市は、(1)川口市立高等学校の再編・統合、(2)歴史自然公園・ 火葬施設整備事業、(3)新庁舎建設、の3大プロジェクトを進めていま す。3月議会で奥ノ木市長が述べたとおり「いずれのプロジェクトも 極めて重要」事業です。しかし、それぞれ課題も抱えています。3プロジェクトを合計すると、総工費はおよそ572億円に上ります。川口の財政に大きな負担となります。

1 新川口市立高等学校

平成30年4月、開校予定

川口市には、市立高等学校が3校(川口総合高等学校、川口高等学校、県陽高等学校)あります。しかし、(1)少子化の流れの中で、生徒数の減少が予想される、(2)校舎の老朽化が進んでいる、などの理由から、再編・統合することになりました。

新高等学校では、「文武両道に優れ、徳力を備えた地域社会のリーダーとなる人材を育成」など、を基本理念としています。現川口総合高等学校が、新校の校舎及び第1グラウンドに、現川口高等学校が、第2グラウンドになります。

すでに一部建設が開始されており、平成 30年4月に開校予定となっています。工事 は、平成33年まで継続する予定です。

平成27年度 校舎棟工事着工

(平成29年12月竣工)

平成30年度 新校開校

アリーナ棟等工事着工 (平成32年12月竣工)

平成32年度 グラウンド等工事着工

(平成33年8月竣工)

平成33年度 工事完成

去年8月に校名が公募され、721件の提案がありました。この中から「川口市立高等学校」にすることが3月議会に提案されています。可決される見通しです。

現在、校章、制服、校歌などが検討されています。



新川口市立高校のイメージ図 出典:川口市HP 幕屋根で覆われた全天候型の「ラーニングスト リート」が特徴です

平成28・29年度に現3校に入学した場合、新校に通学しますが、入学した学科は変更ありません。学校ごとに別の教育課程となるため、他校の生徒と同じクラスになることはありません。卒業は、新高校の卒業生となります。

新高等学校の設立については、校舎建設は、順調に進んでいるものの、カリキュラムなどソフト面での検討が遅れているとの指摘があります。

2 歴史自然公園・火葬施設整備

平成30年4月、開設予定

川口市は、人口約60万人の大都市ですが、 市内には火葬施設がありません。平成13年2 月には、14万人を超える市民から斎場の早期 建設を求める請願が提出されるなど、早期に 整備することが望まれていました。

そこで、平成24年、(仮称)赤山歴史自然公園を整備するとともに、火葬施設を整備することが決定されました。敷地は、首都高速道路川口線の川口サービスエリアに隣接し、合わせて広さ約10万9,000㎡となっています。

平成30年4月に、公園の一部及び火葬施設 がオープン予定となっています。

1. 施設の概要

施設は3つのゾーンで構成されます。

(1) 赤山オアシスゾーン

首都高速川口線を利用する方が、高速を降りなくても利用できるように、約1万8,000㎡の敷地に、駐車場150台分を新設、物販・商業イベントができる休憩施設が設置されます。徒歩で自由に公園ゾーンの散策ができるように整備することにより、計画では年間約350万人の来訪を見込んでいます。

(2) 公園ゾーン

「水と緑のオアシス空間」をテーマとし、7万1,000㎡の敷地の中央に池・水源涵よう樹林を配置し、周囲を散策できるようになります。 (仮称) 歴史自然資料館などを建設する予定となっています。



赤山歴史自然公園・火葬施設 イメージ図

火葬施設は南側(上側)に整備。首都高速 道路利用者は、オアシスゾーンに駐車し、公 園ゾーンを散策できる。出典:川口市HP

(3) 火葬施設ゾーン

計画では、火葬ゾーンは広さ2万㎡。火葬施設は、高さを抑えて屋上を緑化し、周囲の緑と一体的なデザインとなっています (下のイメージ図参照)。



火葬施設 外観イメージ図

(仮称) 川口市火葬施設の概要

建築面積: 約5,500 ㎡ 延床面積: 約7,600 ㎡

規模: 地上2階、地下1階建

火葬炉数: 10 基

(この他、予備スペース4基分等) 諸室: 告別・収骨室7室、待合室**13**室、

待合ホール 等

2 今後の予定

平成28年1月21日に着工式が行われました。平成30年4月には、火葬施設とオアシスゾーン・公園ゾーンの一部が供用開始となる計画です。



工事の現況

平成28年2月3日、ショベルカーが公園 ゾーンで整地作業をしている

2

3 新市庁舎建設

一期棟は、平成31年に完成予定

現在の庁舎は、手狭で、老朽化が進んでいるばかりでなく、耐震性能が十分でなく、早急な建て替えが必要です。建替え計画は、平成25年12月の市議会議決に基づいて進められています。

1. 建設事務所の選定

計画では、まず市民会館敷地に1期棟を 建設、完成後に現本庁舎を解体し、2期棟 を建設するとなっています。

基本計画の策定を受け、設計事務所の選 考が行われ、6社が応募しました。平成27 年12月、書類選考を通過した4社の技術提 案書を、副市長・関連部長による庁内選定 委員会が検討、㈱山下設計が選ばれました

市役所通り(県道)で隔てられる両棟は 、道路をまたぐ連絡通路で結ばれることに なっています。



出典:川口市HP

2. 今後のスケジュール

平成28年度中には、市民会館の解体が始まり、一期棟が建設されます。現在、基本設計が行われており、平成29年度には、建設が始まる計画です

3 現行計画の問題点

(1) 手狭な市役所

敷地が狭いため、当初、必要とされていた4万㎡の床面積が確保できず、会議室などが縮小されました。床面積は32,000㎡に減少、手狭な市役所となります。

(2)建設費が割高

平成25年まで用地選定の検討をした庁舎建設審議会は、その答申で、現市庁舎敷地では238億円、比較検討していたSKIPシティでは建設費207億円と試算しています。現市庁舎敷地に建設すると、約30億円もの負担が多くなります。

平成27年の「川口市新庁舎建設基本計画」は、床面積を4万㎡から3万2千㎡に縮小したにも関わらず、現市庁舎敷地では210~220億円と試算。同様の条件でSKIPシティに建設すると、30億円安価となる試算があります(市議会「川口新風会」試算)。

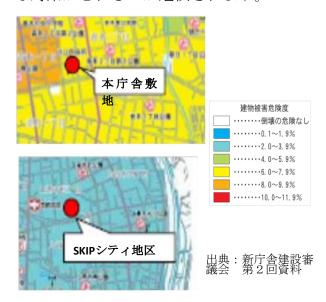
この試算において建設費に差が出るのは、駐車場です。現市庁舎敷地は狭いので、必要な駐車場を確保するために駐車場等を建設することが必要であるのに対し、敷地に余裕がある場所では、簡素な駐車場しか必要がないことによるものです。

新庁舎建設スケジュール(予定)



(3) 災害対策

首都圏で大地震が発生する確率は、今後30年の間に70%とされています。「東京湾北部地震」(M7.3)の被害想定では、現庁舎周辺の建物被害危険度は6.0%~7.9%に上ります。計画では、大規模地震発生時においても安全性の高い庁舎とするため、免震構造等の採用するとしていますが、このように大きな被害が予想される地域に災害対策本部を置いて、十分な対策がとれるのか危惧されます。



建物被害危険度

現市庁舎敷地周辺では、建物被害危険度が6.0~7.9%となっているが、SKIPシティ周辺では2.0~3.9%と低くなっています。

万一、荒川が氾濫した場合、現市庁舎敷地では、2.0mから5.0mの洪水となる可能性があります。これに備え、業務継続に必要となる機能は2階以上に配置するとしています。また、必要に応じて、被害軽減・復旧の司令塔となる災害対策本部を市庁舎以外の場所に設置するとされています。

敷地の狭さ、周辺環境という現在地に内在する欠点は、庁舎の設計上の工夫では根本的な解決はできませんが、現計画で進んでいる現状では、より良い市役所のために工夫をしていくことが必要です。

4 財政への影響

(1) 適正な設計・施工管理

3大プロジェクトは、川口にとって重要な取り組みであり、早期完成が必要です。

総事業費は、約572億円にのぼります。 一部、国庫補助が見込めますが、大半が市 民負担となります。川口市の一般会計は、 約1,862億円(平成28年度予算案)です。 3 大プロジェクトにかかる建設費は、川口市 にとって大きな負担となります。

赤山歴史公園・火葬場=約182億円 (公園120億円、火葬場62億円) 新高等学校=約192億円、 新庁舎=設計を工夫し約200億円に圧縮

新庁舎は、まだ設計が固まっていないため、建設費用の明確化されていません。より機能的で、適正な設計を進めることが必要です。一般的に建設コストは、当初の見込みより高くなる傾向があることから、厳格は施行監理が望まれます。

(2)建設関連費用の抑制

川口市には、学校、公民館、市営住宅をはじめとする公共施設が多くあります。これらの施設のおおくは昭和40~50年代に建築されており、老朽化が進んでいます。このため、維持管理・改修費用も含めた平均費用は、年間約128億円になると試算されています(出所「川口市施設白書」)。

市は、「公共施設等総合管理計画」を策定するなど、費用抑制の方針を示しています。今後は、新規公共事業の厳格審査を含めて、建設関連費用の抑制が必要です。

平成28年(2016年)3月

市議会議員 碇 康雄

〒333-0866 埼玉県川口市芝2-8-2

TEL:048-268-2696、 FAX:048-437-5585

EMAIL: info@ikariyasuo.com

ポスター・看板の掲示にご協力いただける方を募集 しています。ご連絡ください。